

令和6年度 後期学校評価アンケート結果・分析と方策

利尻町立沓形小学校

【学校経営や教育活動への評価】 (1:「そう思わない」/2:「どちらかというところ思わない」/3:「おおむねそう思う」/4:「そう思う」)					評価	割合(%)					令和7年2月発行 学校により資料										
No.		評 価 項 目			平均	1.0	2.0	3.0	4.0												
1	最重点	保護者	お子さんは学校へ行くのを楽しみにしていますか。			3.2	7.4	11.1	33.3	48.1											
		児童	(低)学校に来るのはたのしみですか。			3.4	3.4	6.9	34.5	55.2											
			(高)学校に来るのはたのしみですか。			2.9	10.3	13.8	48.3	27.6											
		教員	【集団づくり】【特別活動】他者と関わり合いを深め、自己決定・自己表現の向上を図る中で、ひとりひとりのよさを生かし伸ばす、居心地のよい集団作りに取り組んでいますか。			3.3	0.0	9.1	54.5	36.4											
考察と課題 ※3者の大きなずれは見られない。 ※高学年に「学校に来るのが楽しみではない」と思っている児童の割合が高い。 ※保護者の回答からも、お子さんが「学校に行くのを楽しみにしていない」と心配されている様子が見える。											なぜ？ ※高学年の児童が、学校の活動のみならず、子どもたち自身が忙しく「やらねばならないこと」に追われている。 ※保護者の心配について…マイナスの報告はあるが、ゼロの報告を受けることは無いため、マイナスのイメージのみが強くなってしまうことも。子どもたちの発達について、成長を課題ととらえてしまうことも考えられる。 方策は ※子どもたちが「楽しいと思う活動」を学校の中に仕掛けていく。(やらされている感ではなく、「自分が」やっている意識を) ※「学級集団」の中に自分の居場所があり、自己有用感を感じられる活動(みんなで行事の取組をする、課題に取り組む)発達段階についても、保護者と共有していく。										
2		保護者	本校は、教育方針や学校行事、様々な教育活動について、参観日・懇談資料や学校・学級により等で情報提供するよう努めていますか。			3.7	0.0	3.7	25.9	70.4											
		児童	(低)がっこうであったことを、おうちのの人に話していますか。			3.2	3.4	17.2	37.9	41.4											
			(高)学校での出来事を、おうちのの人に話していますか。			3.2	3.4	20.7	31.0	44.8											
		教員	保護者や面談、および学級通信等を通じて、子ども達の様子を伝えていきますか。			3.6	0.0	9.1	18.2	72.7											
3	学校づくり	保護者	本校は、一人一人の子どもをよく理解しようと努めていますか。 ※各種児童アンケートを活用し、教育相談を実施しています。			3.3	7.4	7.4	33.3	51.9											
		児童	(低)こまったことがあったら、先生にそうだんしていますか。			3.1	6.9	24.1	20.7	48.3											
			(高)悩みや困ったことがあった時、先生にそうだんできていますか。			2.5	20.7	34.5	20.7	24.1											
		教員	【個に応じた指導】3ー①③ー② 児童の悩みや課題の解決、いじめの早期発見・早期解決のために、教育相談を充実させ、子ども達の困ったに寄り添うチーム沓形小学校として機能していますか。			3.4	0.0	0.0	63.6	36.4											
4		保護者	本校は、お子さんの学習内容やその成果を分かりやすく伝えるように努めていますか。 ※学級通信・学校により等で子ども達の実習や成績について発信しています。			3.4	7.4	0.0	37.0	55.6											
		児童	(低)がっこうでのべんきょうはよくわかりますか。			3.3	0.0	6.9	51.7	41.4											
			(高)授業で勉強したことがよく分かりますか。			3.2	3.4	10.3	44.8	41.4											
		教員	児童の学習成果や課題を保護者に説明していますか。			3.6	0.0	9.1	18.2	72.7											
考察と課題 ※2に関して、保護者と教員間の連携に関する評価が高いが、児童が保護者に伝えられていない傾向。 ※3に関して、低高学年ともに、児童から教師への相談ができていないと回答。教員は「教育相談」を充実させていると回答しているが、日常的には相談しづらい状況がうかがえる。											なぜ？※2 ①家庭内で子どもと親と一緒に過ごす時間が減っている(親は携帯、子はゲームやタブレットなど) ②子ども親も、話す必要性や重要性を感じていない。 ③親が大きな問題が無ければよいと考え、子の困り感に気づきづらい。 方策は※2 ・学級通信や指導部によりで、保護者に向けて対話の良さや必要性を発信する。 ・子どもが大人に話をしやすいような、話題作り・意識作りを行う。 ・ネガティブな話ではなく、ポジティブな話を、伝えたい！と思えるような関わりをしていく。 なぜ？※3 ①先生が多忙で話しかけづらい。 ②子が失敗や問題を困しいと思っている。 ③子が先生に話しても解決しないだろうと我慢している。あきらめている。話を大きくされたくないと思っている。 方策は※3 ・丁寧な教育相談の実施。かしこまらなくても、児童一人一人との時間を作って近況を話し、一人一人との信頼関係を築く。 ・担任以外の人にも話せる環境づくり。ブロック体制の中でブロックでレクをしたり給食と一緒に食べたりする等活動を共にすることで、他学級の先生や支援員、養教との関わりを増やし、色々な人に気持ちを表現できるようにする。 ・先生の多忙化を解決するためには、専科による空き時間を作る。空き時間で仕事をし、休み時間は子どもと接する時間にする。										
5	自ら学びの主体1的に行動	保護者	本校は、授業内容や指導方法の工夫など、子どもの学習意欲を引き出すよう努めていますか。 ※学校研究の充実を図り、日常の授業改革を進めています。			3.2	3.8	15.4	42.3	38.5											
		児童	(低)ともだちと楽しく授業にとりこんでいますか。			3.4	3.4	3.4	41.4	51.7											
			(高)ともだちと楽しく授業にとりこんでいますか。			3.2	0.0	24.1	27.6	48.3											
		教員	【授業改善】1ー②【研修】主体的・対話的で深い学びに繋がる実践的指導力の向上に努め、児童が自分の考えを、仲間伝える場面のある授業づくりを図っていますか。			2.7	0.0	27.3	72.7	0.0											
6			1ー③【総合的な学習の時間】教科横断的視点による、ふるさとキャリア教育の一層の推進をしていますか。			2.5	0.0	54.5	36.4	9.1											
		保護者	本校は、自ら学ぶ姿勢を子どもに育むため、適切な課題を与え、家庭学習の充実にも努めていますか。 ※家庭学習ステップアップ週間を設定し、日常の学級指導と合わせ、家庭学習の習慣化や内容の充実を指導支援しています。			3.2	3.8	11.5	42.3	42.3											
		児童	(低)じぶんから、かていがくしゅうにとりこんでいますか。			3.3	3.4	17.2	24.1	55.2											
			(高)自分でめあてを立てて、家庭学習をしていますか。			3.0	3.4	20.7	51.7	24.1											
教員	自ら学ぶ姿勢を子どもに育むため、適切な課題を与え、家庭学習の充実にも努めていますか。			3.2	9.1	9.1	36.4	45.5													
7		保護者	本校は、パソコンやタブレットのICT機器を活用して、子どもの自主的で主体的な学びを保障しようと努めていますか。			3.4	0.0	7.4	40.7	51.9											
		児童	(低)タブレットを使った学習は楽しいですか。			3.4	3.4	17.2	10.3	69.0											
			(高)タブレットを使った学習は楽しいですか。			3.8	0.0	0.0	17.2	82.8											
		教員	パソコンやタブレット等のICT機器および、デジタル教科書やeライブラリなどの各種コンテンツを活用して、子どもの自主的で主体的な学びを保障しようと努めていますか。			2.8	9.1	9.1	72.7	9.1											
考察と課題 ※5に関して、児童は概ね「楽しい」と感じながら授業に取り組んでいるが、保護者および教員側には、課題意識が見られる。 ※5に関して、保護者が「先生たちは子ども達の学習意欲を引き出してくれている」と実感できる。教員も「学校全体で、授業づくりに取り組んでいる」と実感できる研究・研修の在り方が問われている。 ※6に関して、家庭学習の充実にも今後の工夫改善が望まれる。 ※7に関して、急速にICT化を進めており、保護者・児童からは評価が高い。しかし、教員の意識としてはそれが、「自主的で主体的な学び」につながっているが、手こたえを感じられていない様子が見える。											なぜ？ ※現在の総合カリキュラムには、満足していない教師が多いのではない？ 方策は ※学年に応じたテーマを設定し、総合カリキュラムを作成する。 →各学年のテーマに重なりがないように。 例：3年：自然(海)、4年：福祉(障がい者・高齢者)、5年：自然(山・自然保護)、6年国際交流orSDGs。										

